

塩見～間ノ岳、そして北岳へ（南アルプス縦走）

山行日程：2008 年 10 月 10 日（金）～ 13 日（月・祝）

山行形態：無雪期縦走登山

コースタイム：10 月 10 日（金）：京都出発 3:00～鳥倉登山口 8:05～11:30 三伏峠～15:15 塩見小屋（7 時間 10 分）

11 日（土）：塩見小屋 6:40～7:50 塩見岳～北荒川岳～13:20 熊ノ平小屋（6 時間 40 分）

12 日（日）：熊ノ平小屋 6:05～8:50 間ノ岳～12:15 北岳～13:15 肩ノ小屋（7 時間 10 分）

13 日（月）：肩ノ小屋 5:30～6:55 白根御池小屋～9:00 過ぎ？ 広河原（4 時間？）

（報告&感想）

今までで最長の山行は「3 泊 4 日」で、今年こそはさらに 1 泊延ばして「4 泊 5 日」を、と思っていた。いろいろな条件が合わず、実現できそうになかった。「せめてのんびり山で過ごせればいいな～」と思い、元・体育の日の『10 月 10 日』に休みを取り、秋のアルプスを楽しみに行った。今年のもう一つの目標、「日本の高い山ベスト 5 を制覇する！」という条件をクリアするため、唯一登れていない「間ノ岳」を行先とした。間ノ岳だけに行く登山道はないので、他の山とセットで登ることになる。有名なのは「白峰三山」だが、私らしい山行をしたいと思い、「塩見岳」からだんだんと標高を上げていくコースを選んだ。

塩見岳へは夏の間だけ JR 伊那大島駅からバスが出ているが、この時期はもう運休していてタクシーに乗るしかない。そこでドライブ好きの親に話を持ちかけ、登山口まで連れて行ってもらうことにした。家を夜中 3 時に出て、5 時間程で登山入口の鳥倉ゲートに着いた。途中恵那山のあたりでトンネルを出ると霧がたちこめ天気が悪くなるのかと不安に思っていたが、登山口に近づくにつれ、再び青空が見え始めた。どうもその辺りはいつもこんな天気のようなのだ。最後のくねくねした山道で沢山の栗が落ちていて、親が栗を拾い始めた。早く登山口まで行きたかったのだが、連れて来てもらっているのだから、強く言えない。8 時前にゲートに着いた時、駐車場には既に車が 5 台止まっていた。「行くぞ！」と気合を入れて、軽く準備体操をする。ゲート入り口に『熊に注意』という看板が出ていて、親がやたら心配したが、いろいろ準備してきたので今さらドライブで終わらせるわけにはいかない。意を決し、2 人の心配顔をよそ目に林道を出発した。歩き始めて 5 分程して、足元で「チャリン」と音が。鈴が落ちていたのである。母親の願いが通じたのか？これを拾い、腰にぶら下げて、林道を 30 分弱歩いた。登山口に、この辺りの岩の特徴が書かれた立派な看板があり、ちょっと勉強。体をリラックスさせて、ゆっくり登り始めた。今まで私が登った中では最初が急なところが多かったのだから、ゆっくりゆっくりを心がけたが、さほど急ではなく、少し木漏れ日がある中、気持ちよく歩けた。一つ目の目標地点である「三伏峠」に 11:30 頃着いた。そこにある小屋前のベンチに腰をかけたが、全く展望がない。その時ちょうど一人、下山してきた。その人に、「近くに景色のいいところはありませんか？」と尋ねたところ、「あと 5 分ほど歩いたら、展望のいいところに出来ますよ」と教えてくれたので、お腹が空いてフラフラだったがちょっとがんばってみることにした。しかし 10 分歩いたが、展望のよさそうなところに出ない。もうスタミナ切れだ。あと 20m ほど登ったら小ピークだと思われる手前の、塩見岳が見えたところで、昼の休憩をとった。大好きなパンを食べて再出発。少し行くと、展望のすばらしいところに出た。中央アルプスが目の前に広がっていた。振り向けば塩見岳である。失敗した。納得のいくところまで歩くべきだったと後悔したが、すでに十分休憩をとったので先を急ぐ。ここから稜線歩きで、たいしたアップダウンもなく、景色を楽しみながら進んだ。



三伏峠小屋



1 日目の紅葉



小屋から塩見岳

本谷山を過ぎて、今日一番のダウン。下がりきったところの看板に「塩見小屋まで 1 時間」と書かれていた。運転はしなかったが寝不足気味だったので、足が重く、ここからの登りは辛かった。少し鬱蒼とした樹林帯を 1 時間かけてのろのろ歩くと、やがて明るくなってきた。しかし小屋は見えない。緑の木々の間から赤いものが見え、「小屋の屋根だ！」と思ったが、ちょうど紅葉している葉で、ぬか喜びを 2 回してしまった。苦勞してやっと小屋の入口の看板を見つけた。一人で心細かったが、やっと安心して休めると思い、ほっとした。この日の泊まり客は私一人であった(小屋の管理人、2 人)。トイレは一回使用の袋を使うのでその説明を受け(泊まり客は 3 袋無料。追加一袋 100 円。)小屋に入った。お水を汲みに行こうと思ったが、往復 1 時間はかかるということであった。泊り客は 500ml もらえる。それ以上は、100 円/500ml とのことだった(毎日、小屋の人が汲みに行っているらしい)。往復 1 時間したら暗くなりそうだったので、「あとで買いに来ます。」と言ってしまった。でも泊り客が私一人でかなり疲れている様子だったからか、親切にも 1L くれた。塩見岳が目の前に広がっている絶好のロケーション。山頂を見ながら食事だなんて贅沢だ！と思いながらいそいそで夕食の支度していると、すぐ寒くなってきた。曇ってきたので夕日はいまいちだったが、塩見岳の後ろに月が顔を出しているのを見ることが出来て、満足である。次の日は雨の予報。これが見納めになるであろう。6 時前に入った小屋の中も寒く、シュラフにもぐりこんで、そのまま寝てしまった。

2 日目、前日に「6 時に出発します。」と小屋の人に伝えていたので、5 時に明かりがついた。しかし外は雨音。寒いので、ずるずると 15 分シュラフの中にいたが、雨であっても進まなければ、次の日の行程に影響が出る。時間に余裕を持たすために、出発しなければならない。外に出るとさほど雨は降っていなかった。小屋のドアを開けて、紅葉を見ながら玄関先で朝食を作る。のんびりし過ぎて、6:40 出発になってしまった。地図には山頂まで「1 時間 20 分」と書かれていたが、小屋の人曰く「1 時間」との事。私はどの位で登れるであろう？山頂近く「ガラ場」と書かれていたので、ストックはザックにくっつけた。最初はハイマツの緩やかな道が続き、20 分ぐらいで岩場に出たが、ゆっくり登って行ったので、息はあがっていなかった。雨が降っているという感覚は無く、岩は少しぬれているという程度だったので、一步一步確実に足を置いていたので、不安はなかった。唯一怖いのは道を間違えること。視界は 15 m 程あったので、赤印を慎重に見つけながら登った。休まず 1 時間 10 分かかり山頂らしいところに出た時、そこにはすばらしいものが待ち構えていた。お尻の辺りを白く衣替え中の『雷鳥』である！展望は雲の中であったが、山頂で雷鳥に会えるとはラッキー！！トコトコと逃げて歩く姿がかわいらしい。ご褒美のオレンジジュースを飲んで、少しだけ休憩して、出発した。40~50 分経ったところで道が分かれているようなところがあり、地図を見ていると、ガスが少し退き、谷間の紅葉が見えた。緑の中を一直線に赤・黄の木々が連なり、きれいである。空を見上げたら、雲も薄っすら。そういうと、いつの間にか雨が止んでいた。視界も良くなってきた。一日中雨覚悟だったが、天気回復するのを祈りながら歩いた。塩見岳下り始めが急だったのか、その後なだらかな道が続く。途中静かな樹林帯で、ぬかるんだところに熊の足跡を発見。ちょっと心配になったので、鈴を鳴らしながら歩いた。本によると「いつ通過したかわからない」という安倍荒倉岳は、絶対見落とさないような、きれいな看板が木に掲げられていて、「道から 1 分」とのことだったので、山頂に行ってみた。ちょうどガスが上昇していて、少し待つと仙丈ガ岳山頂が顔を現した。中央アルプスもほぼ全体を見ることができ、振り返ったら、塩見岳にかかっている空も移動中で、10 分程休憩していたら、雲の合間から塩見岳山頂が現れた。かなり小さく見えたので「おお！あんな遠くから来たのか！」と嬉しくなった。あとは小屋を目指すのみである。途中お日様が顔を出してくれて、暑くなってきた。



間ノ岳



霜柱



間ノ岳への稜線

ゆっくり歩いて、13:20 に小屋着。先客が一人。朝天気が悪かったので、一日小屋で過ごしていたらしい。この快適な小屋なら、納得かもしれない。熊ノ平小屋は9月末で営業終了していて、この時期2階が開放されていた。しっかりした造りで、きれいである。小屋前のベンチから農鳥岳の姿がかっこいい。雨具を脱いで、ぬれた靴・靴下を干して、ベンチで本を読む。疲れたら山を見る。この至福のひとつ！だが太陽が山に隠れたら急に寒くなり、3時すぎ小屋に入る。しばらくしたら、両俣小屋経由、仙塩尾根を登って、翌日、蝙蝠岳へ行く男性が来た。変わったコースをとる人がいるものである。4時過ぎ、私と同じコースを三伏峠小屋からきた3人組の男性が来て、6人となる。前日に比べたら、賑やかだ。外は寒いがせっかくの絶景。外で夕食を食べることにした。作り始めたのが遅すぎて、暗くなってきてしまった。だが、月の下での食事もいいものだ。小屋の中では、3人組が宴会モード。他にも人があるのでもう少し静かにして欲しいな～と思いながら、本を読む。開いたらすぐ眠くなる本で、1ヶ月ほどほとんど進んでいなかったが、BGMが大きいので丁度よかった。明朝早く出発する人が1人いたので、7時半ごろ静かになった。しっかりした小屋だったが、持ってきた衣服すべて着てシュラフの口を狭めても寒かった。

3日目は、4時20分起床。外に出てみると、満天の星空。昨日ラジオで、「静岡、曇り」と言っていたので心配したが、そんな気配の無い空であった。前の日の朝はのんびりしすぎたので、今日こそ予定通りに出発しようと思っていたが、5分遅れの6:05出発になった。すっかり明るくいい天気、今日進む方向がしっかりわかる。小屋からすぐのテント場に行く道で、凍った木の板の上で滑りそうになった。夜、外はかなり寒かったのであろう。霜柱がそこら中立っていて、ストックでつぶすのを楽しみながら歩き始めた。30分ほどで見晴らしのいい「三国平」に着き、目の前に雄大な間ノ岳の姿を見ることが出来た。今回の山行の目的の山！こちらから見ると、やさしそうな姿である。ここからはずっと間ノ岳を見ながらの歩きとなった。右からは太陽、左からは風で、三峰岳への道は、尾根東に出ると暑く、西に出ると寒く、体温調節が出来ない。さほど急な登りもなく、小屋を出て3時間で間ノ岳に到着。山頂は広々としていて、富士山の眺めがよかった。昨日見えなかった塩見岳から歩いてきた道を確認できて、気持ちいい。ゆっくりしたいところだが、まだ今日のコースの半分なので、ご褒美のオレンジジュースとあんドーナツを食べて、20分の休憩後、再出発した。せっかく登ってきたのに、300mの下りである。北岳山荘に着いたら、なぜか気持ちが萎えてしまい、また20分の休憩をとってしまった。「今日の宿は、肩ノ小屋。そこまでがんばらねば！」と自分を奮い立たせ、立ち上がり出発。八本歯のコルとの分岐のところで、「北岳40分」と書かれていたので、小休止する。その看板には、「落石注意」ではなく、「転落注意」と書かれている。4年前の雨の日に北岳へ登った時のことが思い出された。尾根に出た時あまりに風が強く、飛ばされそうになり、張ってあるロープにつかまって、風の合間に少し少し進んで、何とか山頂に辿り着けたこと。今まで一番恐ろしいと感じた山行である。今回はさほど風はないが、5時間歩いてきて疲れている体には、つらい登りである。結局1時間弱かかり、12:15に北岳山頂に到着。北岳からの眺めもすばらしい。下に7月に行った鳳凰三山を見ることができ、山行が懐かしい。山頂は多くの人で賑わっていて、私はオレンジジュースで一服した。今夜の小屋はすぐ下に見えていた。あと少しだと思うと気がゆるむが、よくこけてしまう私としては、下りは慎重に歩かなくては。一步一步気をつけながら、13:15、小屋に到着。中に入るとストーブが点いていて、暖かい。この暖かい所にいたら外に出られなくなると思い、すぐに小屋を出た。雲の上の富士山と鳳凰三山を眺められるベンチに腰かけ、コーヒーを飲みながら本を読む。疲れたら、お菓子と飲み物と山々。幸せだ！ダウンジャケットにフードを付けてきて、正解だった。風があるので、日が出ていても少し寒い。その日は早めの4時に夕食を作り始める。下にあったガスが上ってきて、富士山・鳳凰三山が見え隠れするが、振り向けば後ろに甲斐駒・仙丈ガ岳、そして遠くには北アルプスが見える。



鳳凰三山



北岳への稜線



小屋から富士山

夕日が沈んで、雲が赤くなるのを見届けるまで4時間、外でねばった。小屋の中では、みんな食事が終わり、ストーブの周りでくつろいでいる。私はちょっと離れたところで、読書&ティータイム。8時消灯まで、ぼかぼかゆったり出来た。前日とはえらい違いであった。

4日目、4時過ぎ起床。今日は絶対に目標時刻に出発したかったので、目覚めてすぐ片付けをした。外に出たら、今日も星空がきれいだった。4時半に小屋の明かりが付き、みな起き始めた。5時にストーブが点き、コーヒーを飲んで暖まってから、5:25に出発した。ヘッドランプがもう必要ない程度の明るさである。すでに何人か出発していた。20分ほど下ったところで、朝日を見ることが出来た。色付いている木々の中を、後ろの北岳をちらちら見ながら歩いた。予定より早く、6:55に白根御池小屋に到着。その日一緒に連れて帰ってもらう予定の「バットレス・パーティー」の2人はいるだろうか？と心配していたが、外でくつろいでいるところで、出会うことが出来た。前日、北岳山頂付近で会えるかな？と期待していたが、そちらの方が先に登頂していたので出会えなかっただけに、うれしかった。この辺りは紅葉がとてもきれいで、北岳をバックに写真を撮ってもらった。2人が片付けるのを待って、一緒に広河原まで下った。エアリアでは1時間半のコースタイムだが、登はん用具をもっているにもかかわらず、2人のペースは速すぎる。腰痛持ちの私としては、下りは要注意なので、ストックをうまく使って、足腰に負担のかからないように、慎重に歩いた。一気に下ったが、私一人だったら、1回or2回休憩を入れていただろう。広河原に着いたのは9時ぐらいで、バスの時間まで1時間あるな～と思っていたら、運よく乗り合いタクシーが停まっていた乗ることが出来た。途中、ニホンカモシカが車の前を横切って、山に登っていく様子を見られて、いい思い出になった。そして10時前に、芦安駐車場に着いて、山行が終了した。

今年の夏は、南アルプスの仙丈ガ岳から始まり、鳳凰三山、北アルプスの白馬岳、朝日岳周辺、北穂～槍ヶ岳、そして再び南アルプスに戻ってきた。お花のきれいな季節から紅葉、中には私にとってチャレンジングなコースと、いろいろな山の楽しみを満喫できた。初めての泊まり山行のリーダー、メンバーで助け合った合宿、そして一人での山歩き、雪稜に入る前には考えられないほど成長できたと思う。だが、足りない点がたくさんあり、特に合宿のあと、自分なりにパーティーで行くにはどんなことが必要なのか、いろいろ考えてみたが、実力が無いので、まだまだたくさん経験することが必要だという結論に達した。毎回目標を掲げていると、自分の成長が感じられて、楽しい。今回あとで気づいたのだが、いつの間にか日本の高い山10位まで登っていたようだ。次の目標は、20位制覇にしようか？次の夏が待ち遠しいな。



小屋からの夕日



白根御池小屋周辺



北岳

藤田 雅子